

発行者名	教育出版	教育芸術社
<p>調査の観点</p> <p>1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)児童の発達段階に対する配慮されているか。 (3)各学年にわたる内容の取扱いに対して配慮しているか。 (4)児童の意欲、関心を引き出す配慮があるか。 (5)児童の習熟の程度に応じた発展的な学習内容の取扱いが適切であるか。</p>	<p>(1)配慮している。 ・教科書右肩に示されている共通事項・新出記号等は、見直しをもって学習が進められる。 ・「言語活動の充実」に関連して、児童自らが聴き取ったことや感じ取ったことを、言葉で表し、書き込めるワークシートが掲載されている。 ・[共通事項]アを「音楽のもと」という名前で示し、そのページで学習する「音楽のもと」をページ右上のインデックスに表示している。 (2)配慮されている。 ・概ね発達段階に対する配慮がされている。 ・各学習のポイントを示すてんとうむしのマーク、前の学習をふりかえるカエルのマーク、参考ページを示す矢印のマークなどが表示されている。 (3)配慮している。 ・題材の部分とその他の部分（「音楽ランド」「めざせ楽器名人」「音のスケッチ」など）の特設ページが設定されている。 (4)配慮がある。 ・歌唱、器楽、鑑賞とも教材は児童が関心をもつ楽曲である。また、ねらいに沿った選曲である。音楽遊びや旋律づくり等の音楽をつくる活動では、題材に関連して「音のスケッチ」を中心に、具体的な学習活動が示されている。 (5)適切である。 ・基礎となる学習（習得）と学習の広がり（活用）の二つに題材群が分けられ、紙面左上に「学習のねらい」または、「学習のポイント」が示されている。 ・補充教材や難易度の高い教材が充実している。</p>	<p>(1)配慮している。 ・児童にも共通事項が分かりやすく示されている。また目次には指導要領を踏まえた題材とめあてが示されている。 ・教科書左に、各題材における目標が表記されており、何を学んでいるかが、常に振り返ることができる。 ・学習指導要領の教育内容の主な改善事項「言語活動の充実」に関連して、子供たちの発言例を吹き出しで示し、音楽から感じ取ったことを発表する活動や話し合ったり、書いたりする活動が取り上げられている。 ・[共通事項]アを各学年巻末の「ふり返りのページ」に示し、その学年の学習内容がまとめて掲載されている。 (2)配慮されている。 ・概ね発達段階に対する配慮がされている。 ・くまのキャラクターにより、その題材で学ぶ学習内容や発展的な学習の内容を説明している。 (3)配慮している。 ・各学年に題材の部分と「歌いつごう日本の歌」や「みんなで楽しく」の曲集が共通して掲載されている。 (4)配慮がある。 ・歌唱、器楽、鑑賞とも教材は児童が関心をもつ楽曲である。また、ねらいに沿った選曲である。音遊びやリズム遊び等音楽をつくる活動には、目次に虹マークが示され、題材に関連して設定され、学習活動の手順が具体的に示されている。 (5)適切である。 ・各題材のねらいに迫るための学習内容（目標）や学習活動を展開するための具体的な手だてが紹介されている。 ・合奏の基本教材と発展教材があり、児童の実態に合わせて選択できる。</p>
<p>2 構成及び分量 (1)内容は全体として系統的・発展的に構成されているか。 (2)各領域の分量について児童の発達段階を十分に配慮しているか。 (3)教科の特質に即した主要教材において基礎的事項をおさえ、補充教材並びに発展教材等の取扱いに対して配慮しているか。</p>	<p>(1)構成されている。 ・各学年とも基礎的な内容と発展的な内容が目次に明記されている。 (2)配慮している。 ・児童の発達段階を考えた各領域の分量になっている。 (3)配慮している。 ・「音のスケッチ」で音楽づくりについて系統的に構成されている。 ・音楽づくりの活動例の資料が豊富である。（例：6年P46,47） ・共通教材を見開きまたは折込みのページで扱い、曲と関連するエピソード等を記載している。（例：3年P42） ・「にっぽんのうた みんなのうた」として、共通教材以外の唱歌等を、掲載している。（全学年） ・巻末に、打楽器等の奏法をまとめて示している。（1、2年）・巻末に「音楽を表すいろいろな言葉」の例を示している。（2・3・4・5・6年） ・歌唱教材の補助教材が多く、実態に合わせて選択しやすい。器楽、合奏教材の分量は適切である。音楽づくりの教材は充実している。 ・補充教材・発展教材が多く取り扱われている。</p>	<p>(1)構成されている。 ・発展的な楽曲が巻末にまとめられており分かりやすい。 (2)配慮している。 ・児童の発達段階を考えた各領域の分量になっている。 (3)配慮している。 ・音楽づくりのページでは、つくり方のポイントを、共通事項と関連させながら説明している。（例：5年P20、21） ・基礎的事項がていねいに押さえられている。（例：音符や休符の書き方） ・振り返りのページでは発達段階に応じた内容がまとめられている。 ・「歌いつごう 日本の歌」として、共通教材以外の唱歌等を各学年掲載している。（全学年） ・巻末に「ふりかえりのページ」として、学習内容をまとめて示している。（全学年） ・巻末に「音楽の歴史をつくった人」として、鑑賞教材に関連した作曲家についての写真を紹介をしている。（例：3年 ベートーヴェン）</p>
<p>3 表記及び表現 (1)児童にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。</p>	<p>(1)楽譜や文字が適度に大きく、児童にとって読みやすい表現になっている。 ・ページ右に、「音楽を特徴付けている要素」や「音楽の仕組み」、新出の音符や休符、記号や運指等を示している。（全学年） ・セロハンシートを活用して、1、2年では、児童が曲のイメージを想起したり、3年では、児童が音符や記号等を確認しながら学習できるようにしている。安全面での取扱いに注意する必要がある。 (2)版型はAB版である。・鍵盤ハーモニカ、打楽器、リコーダーの構え方や演奏の奏法、歌い方について、写真や絵で大きく示して説明している。 ・写真がダイナミックで美しい。情景を思い浮かべるのに適している。 ・リコーダーの運指表が折り込みページで配置され、楽譜と同時に見られる工夫がある。</p>	<p>(1)リズム表記が分かりやすく、読みやすい表現になっている。 ・1ページ毎の情報量のバランスがよく、読みやすい表現になっている。 ・目標や曲名の表記がシンプルで見やすい。 (2)版型はAB版である。各ページの右上のインデックスが題材ごとに色分けされている。 ・鍵盤ハーモニカや打楽器やリコーダーの構え方や演奏の奏法、歌い方について、大きな写真や絵で示して説明している。 ・柔らかい色彩である。 ・ワークシートとして使えるページがある。表紙のイラストが柔らかい雰囲気でも彩りも美しい。 ・3年のリコーダーは楽譜が大きくて見やすい。 ・1年のリズムの学習で、しろうまやはちのイラストを利用して楽しく学習することができる。</p>
<p>4 使用上の便宜 (1)全体の構成が見通せるように配慮しているか。 (2)課題発見、課題解決に向けた学習が効果的に進められるように配慮しているか。 (3)印刷・装丁に対して配慮しているか。 (4)地域性に対して配慮しているか。</p>	<p>(1)配慮している。 ・目次が見やすく、基本教材と発展教材に分かれていて分かりやすい。 (2)配慮している。 ・題材や教材に対してのねらいが明記されており課題発見や課題解決につなげやすい。 ・習得、活用の観点から、題材を基礎・基本の定着を図る主要部分と、弾力的な運用が可能な選択部分等により構成している。 ・鑑賞のページで書き込みができるようになっており、学習が効果的に進められる。 (3)配慮している。 ・「この教科書はカラーユニバーサルデザインに配慮して、見やすいカラーデザインになっています。また、環境にやさしい再生紙と植物インキを使用しています。」(CUDO認証)と表示されている。 ・印刷・装丁は丁寧である。 (4)特に配慮されていない。</p>	<p>(1)配慮している。 ・目次が見やすく、分かりやすい。 (2)配慮している。 ・題材や教材に対してのねらいが明記されており、課題発見、課題解決につなげやすい。 ・鑑賞ページで書き込みができるようになっており、学習が効果的に進められる。 (3)配慮している。 ・「この教科書は、すべての児童にとって分かりやすい色づかいになることを目指して、色の見分けのつきにくい方々からの助言を得て、編集・制作されています。」と表示されている。 ・装丁は糸とじになっているため見開きで使いやすい。 (4)特に配慮されていない。</p>
<p>5 総合所見 (1)教科の指導及び児童の学習活動の視点から総合的にみてどうか。 (2)現在八王子市で使用している教科用図書と比べてどうか。</p>	<p>(1)共通事項や指導内容が分かりやすく、児童の活動の視点から挿絵や写真、説明の図などが効果的に配置されている。 ・楽曲数が多い。 ・写真・イラストは大きく、色づかいに工夫がある。 (2)全体的に明るく華やかで、児童が親しみやすい。 ・副教材には好感のもてるものが多く、専門的な深まりのある内容になっており、音楽に堪能な指導者が指導した場合、効果的な音楽学習が期待できる。</p>	<p>(1)共通事項や指導内容が分かりやすいため、指導しやすく学習しやすい配慮がなされている。 ・全体的な表記が落ち着いた。 ・基礎的事項をていねいに扱い、発達段階に応じた構成になっている。 (2)低学年のわらべうたから高学年の「歌いつごう日本の歌」が系統的である。 ・3年 おはよしの旋律づくりに、選んだ音を書き込む欄ができ、使いやすくなった。 ・色がきれいになった。音楽づくりは扱いやすくなっている。教材が大幅に変わっていないため、指導しやすい。</p>